

## 第 2 学 年 道 徳 科 学 習 指 導 案

2 年 1 組 指 導 者 森 重 孝 介

### 題 材 仲 間 外 れ の 理 由 と は 「 お よ げ な い リ ス さ ん 」

#### 1 本 題 材 で め ざ す 子 ど も の 姿 に つ い て

対象と向き合う子どもの姿【対】	自己と向き合う子どもの姿【自】	他者と向き合う子どもの姿【他】
○仲間外れの理由を場面や生活経験と比較することで、仲間外れをしないよさを捉えている。	○仲間外れにおける自分のこれまでの接し方を見直し、これからの接し方を考えている。	○仲間外れの構造について仲間と話し合っている。

#### 2 め ざ す 子 ど も の 姿 を 実 現 す る た め に

子どもたちは、仲間外れはいけないことであると今までの生活経験や親、教師、友達とのかかわりを通して分かっている。このような子どもたちが、仲間外れをしてしまう理由と仲間外れをしない人間関係のよさについて考える学習に取り組む。このことは、公的な場において自分の好き嫌いに捉われないで接しようとする態度を培うことにつながるであろう。

本題材は、内容項目「公正、公平、社会正義」をねらいとし、仲間外れをする人物とされる人物の気持ちを考えながら教材文を読み、仲間外れという問題に自分はどう向き合うのかという考えを深める学習である。本教材「およげないリスさん」は、亀、白鳥、アヒルが泳げないことを理由に、リスを仲間外れにするところから始まる。リスを仲間外れにして遊ぶ亀達は、自分たちが思っていたよりも楽しくないことに気付く。亀達は自分たちの言動を反省し、次回は亀が背中にリスを乗せることで、リスも一緒に島へ楽しそうに向かうのである。子どもたちは、登場人物の言動の理由を多面的・多角的に考えたり、仲間外れの場面と比較したりしながら、仲間外れをしないことのよさを捉えていくであろう。その際、自分の感じ方や生活経験を交えながら考えることを大切にしたい。そうすることで、仲間外れをせず、自分の好き嫌いに捉われないで接しようとするよさを自分事として見出すことができるからである。

そこで、以下のような支援を具体化し、本題材でめざす子どもの姿の実現を図る。

- 仲間外れの場面と仲間外れをせずに楽しく過ごす場面とを比較するよう促す。そうすることで、仲間外れはいけないことであるとともに、仲間外れをしないことは、自分や相手、人間関係によい影響を与えていることを捉えることができるようにする。【対】
- 「できる人物」に○、「できない人物」に△のマグネットを置き、「できる人物を呼べばよいのでは」と問い返す。そうすることで、仲間外れの構造に気付くことができるようにする。【他】
- 授業の終末には、「仲間外れを見たとき、自分なら何と言いますか」と問い、学習を振り返る場を設ける。そうすることで、仲間外れに対して今までの自分なりの言動を見直し、これからの自分の生活について考えることができるようにする。【自】

#### 3 本 題 材 の 評 価 の 視 点

- 仲間外れをしている場面と仲間外れをしていない場面とを比較しながら、仲間外れの理由を多面的・多角的に考えている。
- 仲間外れをしている場面をみたときに、自分ならどのようにするか考えている。

#### 4 本 時 案 【令和元年6月17日 13:40～14:25 2年1組教室】

- (1) ねらい 仲間外れに関わる場面について話し合うことで、仲間外れが生活する上で楽しくないことに気づき、自分の好き嫌いに捉われないで接しようとする態度を培うことができるようにする。
- (2) 学習過程

学習活動・学習内容	子どもの意識	○教師の支援
<p>1 仲間外れについて想起する。(5分)</p> <p>・仲間外れへの思い</p> <p>2 仲間外れに関わる場面について話し合う。(35分)</p> <p>・仲間外れをしている人の気持ち</p> <p>・仲間外れをされている人の気持ち</p> <p>・仲間外れをした後の感情</p> <p>・仲間外れをしない人間関係</p> <p>・仲間外れをしないために大切なこと</p> <p>3 今日の学びを振り返る。(5分)</p> <p>・今までの自分</p> <p>・これからの自分</p>	<p>・仲間外れを見たことについて考えるのか。</p> <p>・僕はあるよ。いやな気持ちがあったよ。</p> <p>A私もあるけど、何も言えなかったな。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <b>なぜ仲間外れがあるのだろうか</b> </div> <p>・リスを仲間外れにしていけないね。</p> <p>・でも3人で遊んでも楽しくないようだよ。</p> <p>・どうして楽しくないのかな。</p> <p>・きっとリスがいないからだね。</p> <p>・だから次はリスも入れようと思ったのか。</p> <p>・亀の背中に乗せるってよいアイデアだね。</p> <p>・楽しそうに島に向かってるよ。</p> <p>B <u>リスが泳げなくてもこうやって4人いると、楽しく遊べそうだ。【対】</u></p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;">       だったら、初めから泳げる友達を連れてくればよいのではないかな     </div> <p>A えっ。だめだよ。リスさん可哀そうだよ。</p> <p>・リスさんと同じで私もできないから、入れなくてさびしかったことがあるよ。</p> <p>・<u>人数が大事ではなくて、一人でも悲しい思いをしている方がいけないと思う。【他】</u></p> <p>B できる人もできない人もいるのは当たり前だよ。</p> <p>・だから仲間外れをしないように、みんなで考えることが大切なのだね。</p> <p>A 私は、「<u>悲しい思いをするよ。みんなで違う場所で遊ぼうよ</u>」と言うよ。【自】</p> <p>・できる人、できない人がいるクラスだからこそ、もっと仲良くなれるよ。みんなでよいクラスをつくっていこう。</p>	<p>○ 仲間外れの場面と仲間外れをせずに楽しく過ごす場面とを比較することで、仲間外れはいけないことであるととともに、仲間外れをしないことは、自分や相手、人間関係によい影響を与えていることを捉えることができるようにする。</p> <p>【対】</p> <p>○ 「できる人物」に○、「できない人物」に△のマグネットを置き、「できる人物を呼べばよいのでは」と問い返すことで、仲間外れの構造に気付くことができるようにする。【他】</p> <p>○ 授業の終末には、「仲間外れを見たとき、自分なら何と言いますか」と問い、学習を振り返る場を設けることで、仲間外れに対して今までの自分なりの言動を見直し、これからの自分の生活について考えることができるようにする。【自】</p>

(3) 板書計画

